

強 調 路 線 の 推 奨

我々、紀州熊野応援団は以下 4 つの言葉を合言葉に、日々地道な活動をおこなっています。 紀州熊野と都会にかけの橋 紀州熊野をひとつに 紀州熊野のスポークスマン 古い紀州・熊野は今新しい。

私は現地のほうで、新規産業支援委員会に属し、東京の浦委員長と緊密な連絡をとりあいながら、支援活動を推進している次第です。

とりわけ、私自身が田辺市・白浜町をベースに活動をしていまして、新宮・熊野方面の理事の方々とは連絡網が完成しています。

しかし、紀中・紀北方面が全くと言って良いくらい、啓蒙活動ができていないこともあり、認知度がまったく無いといっても過言ではありません。冒頭の紀州は一つ！というスローガンを掲げている以上、空白地帯の存在は応援団の機能面でも支障があることはゆがめません。また、上記地域のみならず、紀南・熊野方面でも、今以上に頭数だけではなく、現役でご活躍されていらっしゃる、同郷の紀友会のメンバーの方々の相互応援を個人的には期待申し上げたい次第です。紀州熊野応援団のホームページをご参照していただければお分かりになっていただけると思いますが、地道に活動をスタートしています。今後はそのスピード・スケールを倍速で加速していき

たい所存です。

地方の要望事というのは、都会で日々居ると、案外ちっぽけで、センチメンタルな事項が多く感じることもございましょう。

しかし、それが実態なのです。

この辺を解決してあげることが、土俵で一人勝負できるお膳立てでしようし、しいては関連ビジネスも自然発生しようかと思えます。

このようなお膳立てがなければ、多くの産業・商業はあと5年～8年で淘汰の嵐で、全く姿かたちを消してしまうでしょう。

ニッチを水の勢いで駆け巡ることができる方々は別としまして、大半がその範疇に生きています。他力依存を主に商売（目先商売）してきたつけかもしれませんが、創意と工夫の発想すら持てない悩める現状です。

こういった諸事情をふまえ、一気にとはいきませんが、近い将来において、紀友会と紀州熊野応援団が共同もしくは統一団体として、存立できないものかと、個人的には思う次第です。

まずは、紀州熊野応援団にご入会いただき、崇高なお知恵と、ご尽力を賜りたいと願います。

今日この場をお借りいたしまして、皆様に一考、ご提案申し上げます。現地理事としましても、橋渡しのお膳立てには全力で取り組み

ますので、是非、紀友会の方々にもご尽力を賜りたい所存です。

一度、紀友会の中でも、今日のご提案事項につきまして、コンセンサスを得られるようなカンファレンスを執行部の方々にとりもっていただき、我々にお力を貸してください。

紀州熊野応援団

吉本 紳華